



その218

クローズアップ21

チャンピオンドwarf導入も話題に 鴻巣カントリークラブ

自社経営の練習場、自治体との連動で地域の活性化を図る

埼玉県鴻巣市にある鴻巣カントリークラブ（18H）は、田園地帯に作られた林間コースである。経営は関文グループの三宝開発（森川英幸社長）で、GMG八王子ゴルフ場（東京都、27H）、長瀬CC（埼玉県、18H）の他、鴻巣CCに隣接している大型練習場・鴻巣ジャンボゴルフセンター（300ヤードで88打席）も経営しているグループ企業だ。

そんな鴻巣CCは、1976（昭和51）年8月6日に開場したメンバースhipのゴルフ場で、コース設計はゴルフパス造園（株）だ。

2018年の年間の入場者数は、約4万3000人で、男女比は男性90%、女性10%。そしてメンバーとビジターの割合は、51%・49%とほぼ半々。交通至便なゴルフ場だけに70歳台以上が全体の約60%を占めている。コース予約に関しては電話が85%、WEB予約が15%と電話予約が主流となっている。

同CCの概要が終わったところで、さっそく同CCの様々な取り組みについて、森川宗介取締役支配人に話を聞いたので順に紹介していこう。

特に夏場に効果を発揮する 「チャンピオンドwarf」 キーパーのストレス軽減に

同CCでは、平成28年5月にチャンピオンドwarfの導入に伴う作業を開始し、同年9月に使用を開始した。少ない費用、少人数での施工で済むゴーローン（二重ネット芝）方式を採用したという。

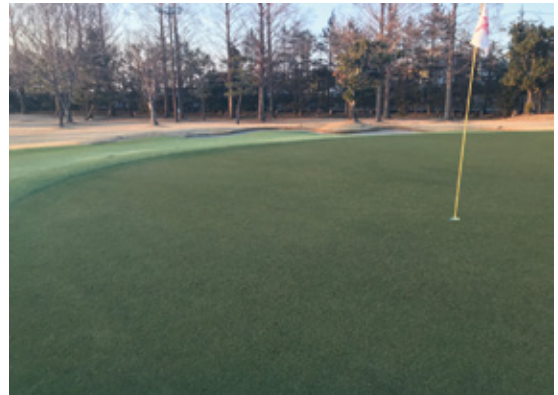
「当クラブがある鴻巣市は熊谷市に隣接していますが、皆様ご存知の通り、埼玉県の熊谷の夏は非常に暑くなるエリアです。水田の湿気と熱帯夜が続き、夏場にベントの傷みが激しい状態でした。そんな中、関文グループでは4年ほど前から毎年1月あるいは2月に、メンバーさんを連れてタイに行っておりません。そこで、暖地型芝生である「チャンピオンドwarf」に出会いました。暑い中、状態も良かったですし、「これは良い」と一同で感じまして、採用することになりました。タイに見に行ったのが、最初のきっかけですね。元々は2ベント（共にペンAー）でしたが、夏場、どんどん暑くなってきていますので、夏越しの時に水を相当撒かないといけない」と



鴻巣CC・森川宗介支配人

いうことで硬さが出ない、コンパクションが相当軟らかい状態でした。ボールが埋まるぐらい水を撒かないと芝がもたない状態に陥り、「これはそろそろどうにか入れ替えをしなければならぬ」という思いから始まっています。そしてタイから帰国後、三ツ木キーパーを連れて、既にチャンピオンドワーフを導入していた、武蔵松山CCやKOSHIGAYAGCへ視察に行きました。視察は共に冬場だったので、冬場でも使えることを知りました」（森川支配人）

バミューダグラスの導入で、ベントグラスに比べ、殺菌剤の費用が2/3になった。夏場の作業軽減につながる」という声もよく



耳にするが、日本では知見もまだまだ少ない状態だ。

「導入にあたり、当初は耐暑性があり、コスト削減ということ、費用的な狙いもあったのですが、現在はベントグラスとあまり変わらないですね。肥料もかなり喰いますし、砂も結構撒きました。まだ、チャンピオンドワーフなど、バミューダグラスに対応する薬剤や肥料などが少なく、値段も安くはないはなないように感じます。

しかし、やはり夏越しの心配が全くないのが一番の魅力です。夏場、キーパーの精神的な心配がな



鴻巣CCのチャンピオンドワーフ。一年を通してクオリティが高い

くなる、ストレス軽減は本当に大きいと聞いています。夏場に砂を撒いてもピクともしないグリーンです。なお、チャンピオンドワーフは日照がエサなので、導入の際はAグリーンとBグリーンを入れ替えたりして、日がしっかりと当たるよう、周辺の木の伐採も行いました。また、かなりの低刈りが可能でそれと同時に面の硬さも出ますので、ボールマークが付くことはほとんどありません。三ツ木キーパーもチャレンジ精神がありま

8、9月の暑い時にクオリティを保ちながら、11フィートを出して、ミッドアマでは13フィートを記録したという。ただ問題としては春の立ち上がりが悪く、使い始めの時期の選択が難しい点が挙げられるという。同CCでは去年でいうと、6月30日から10月末までメイングリーンとして使用したそう。10月以降はベントをメイングリーンにし、ベントと交互で冬場も使用しているという。この芝は耐寒性という点では強くはなく、冬場は休眠するが同CCのグリーンのクオリティは非常に高く、1月の時期でも週1回は使用



鴻巣CCに隣接している鴻巣ジャンボゴルフセンター外観

しているそうで、メンバーからの評判も上々だという。

「クオリティが高く、状態が良いということで昨年度の猛暑で苦勞した全国のゴルフ場経営者の方々が頻繁に視察に來られました。現状に満足せず、今後も(株)ニチノ一緑化さんと一緒に色々探っていきたいと思っています」(森川支配人)

同社経営の大型練習場を活用し、若年層の底辺拡大を

同CCには『鴻巣ジャンボゴルフセンター』が隣接しており、ここは自社経営の大型ゴルフ練習場だ。ショートコース(6H)、パッティンググリーンも完備しており、森川支配人が練習場の支配人も兼務している。

「3年前、私が支配人に就任した際、ティーイングエリアのようなイメージで全打席人工芝にしました。ラフマットも置いて練習しやすい環境にまず整えました。かつてはゴルフ場と練習場が離れたようなイメージがありました。私が就任してからは一緒にイメージを持たせて、一体型総合ゴルフ施設」のような形を目指しています。



練習場内。300ヤード、88打席で全打席オートティーアップ装置完備で全打席人工芝

その中の一つとして、アプローチ・バンカー練習場のグリーンはチャンピオンドwarfを採用しています。

そして、練習場ではジュニアの練習代をほぼ無料のような形に設定しています。周辺の幼稚園にもお声がけしたりもしました。ゴルフをやったことのないジュニア達がショートコースで鬼ごっこをやったりと、まずゴルフと関係ないことをやり、この場所自体に興味を持つてもらい、その後スナッグゴルフをショートコースで行い、さらに興味を持ったジュニア達が



練習場内にはゴルフパートナーが委託で入っている

鴻巣CCでプロと一緒に1〜2Hラウンドできるという企画も実施しています。練習場の初心者やジュニアが9Hというイメージではなく、1Hでも2Hでも3Hでも鴻巣CCでプレーできるというイメージで取り組んでいます。練習場でこの企画を実施する時は、500円でカレーを付けて、プロも帯同して実施しています。採算度外視です(笑)。小学校、中学校になってもゴルフを続けてくれることを社員一同目指しています。練習場とゴルフ場が連動した企画は老若男女問わず、これからもど

んどんやっていこうと思っています。時代の流れにどのように対応し、変えていくかが重要だと思っています」(森川支配人)

今後は、練習場のメンバーやスクールの入会者がもう少し鴻巣CCを使いやすくできるような環境作りをしていく考えだ。同CCへの囲い込み、要は練習場利用者のコース利用を特に促進していくといい、練習場のメンバーに対しては、メンバーが更新をした際には、通年で使える破格の割引券を渡し、一度コースを見てもらうことに重

練習場にあるアプローチ・バンカー練習場。グリーンはチャンピオンドwarfを採用



バッティンググリーンとショートコース(6H)。鴻巣CCから、昼食の配達も可能



イバーの試打会を同CCで実施しているといい、隣接している強みを生かしている。

地元の幼稚園と協力し、練習場内に託児所設置の計画も

同CCでは、平成21年に18番ホール横に常設託児ルームを設置し、お母さんも気軽にプレーを楽しんでもらえるよう、環境作りを行っていた。場内キッズルームで専門の保育スタッフが子供を預かるサービスも行っていたが、しばらくは中止していた。しかし、周辺の状況から、これからまた必要になると思い、復活させる考えだという。

「以前の託児所は施設が老朽化しているの、練習場の2階を使っている。託児所予定地。練習場の2階にある(現在は倉庫)」

点を置いていくという。
なお、練習場には(株)ゴルフパートナーが委託で入っている。同CCのクラブハウス内には、ボールやドリンクなど小さな物しか置いていない。ゴルフ場で練習場での買い物ができるので、練習場に入っているゴルフパートナーで購入してもらって流しを確立していきたいとしている。その他、トップシザーズには、パターやドラ



で社内保育のような形で託児所ができないかと鴻巣市の幼稚園の経営者と話し合っています。ゴルフ場利用者だけでなく、近隣住民の方々も利用できるような形で検討しています。また当クラブには若いキャディーもいますので、そのキャディー達が子供を産んで鴻巣CCに帰って来られるような環境作りを目指しています(森川支配人)

**PGA公認シニアオープン開催
それと同時に夏祭りも開催
地域の活性化のきっかけに**

同CCでは7月19、20日にPGA公認の『関ヶ原グループ鴻巣シニアオープン』が新規に開催される。開催に伴い、練習場の施設を全部使用し、鴻巣市とタイアップして夏祭りを開催するという。

「シニア層はジュニアと相性が良いと思います。鴻巣市の観光協会と現在話を進めており、当日は練習場を閉めて盛大的に実施する予定です。ここに集まったジュニア達がシニア大会を無料で観戦できるようにする予定です。」

鴻巣市長にも興味を持っていただき、後援という形で援助してくれることになっています。ゴルフ

場に来たことがないジュニアを、例えば15時以降にゴルフアークがない1番ホールに何人か連れて散歩をするなど、様々なイベント企画を予定しています。大会に参加するシニアプロもお祭りに参加する企画も実施予定です。

やはりゴルフ以外の要素も出せば、ゴルフ場に興味が無い人もゴルフ場に来てくれるのではと思っています。お祭りとはゴルフトーナメントがタイアップするという例はほとんどないので、ポスターなどの販促にはかなり力を入れています。町ぐるみのイベントですし、鴻巣市にここまで協力いただけるので、ゆくゆくは「埼玉シニアオープン」のような形で「埼玉の夏祭り」みたいなイメージでできればと考えています。鴻巣市には公園などの施設が多数ありますので、これらを使い、大々的に開催できればいいなと考えています。今年初の試みですが面白いですし、なにより地域の活性化につながるのではないかなと思っていますので、来年以降も続けていければと思っています。ゴルフ場業界の皆様、ぜひ今年の夏、当クラブにお越し下さい(森川支配人)